



岩手県・高橋先生ご夫妻より

今回参観された先生方の中には、ご夫婦で参加された方々もおられました。お二人からのお便りを合わせて紹介します。

渡辺先生

盛岡でお会いしてますます渡辺先生の教室が気になり、昨日見せていただいたことを心から嬉しく思います。

「今日はどんなことが起こるのだろう」と胸を躍らせながら尾張瀬戸駅から歩いていると、みおさんに遭遇。SOLAN 小の子たちと一緒に登校するという、一日の初めから最高のイベント発生で心がさらに高揚しました。

いざ授業が始まると、僕には「何が起きているのかわからない」状態がひたすら続きました。暗誦しながら席に着く子供たち。それも一つではなくいくつもの文章、さらに連続。子供たちの声もやらされている感ではなく、ハリのある本気の声。「なんでこんなに本気なの!？」と勝手に思っていました。そこには褒め、仕組み、テンポ、自信のある説明、一貫した指導、活動の価値付け、などなど4月からの積み重ねを感じました。これらの活動は僕が想像する小学生の姿を大きく超えていきました。何より「暗誦」という一見つまらなさそうな活動に子供たちが夢中になって楽しそうなのが印象的です。

辞書引きや地図帳など多くの競争する場面がありましたが、他者との競争ではなく、「過去の自分との競争」になっていることに驚きました。「子供は担任を写す鏡」というように渡辺先生も矢印を自分に向けているのが子供た

ちにも伝わっているのだと感じます。二次会での、「自分のことに興味をもつ」というお話にはハッと気付かされるものがありました。他人に興味を寄せて、僕が安心したいという他責思考だった上に、僕は自分のことをよく知らないし考えることもしていないと痛感いたしました。渡辺学級の子供たちのように、矢印を自分に向けてから始めていきたいと思います。さらに、相手の求めているものを想像しプレゼントすること、他者（子ども）から自分はどう見られているのかを考え続けることの大切さも知ることができました。今はまだチューニングを合わせるのが上手くいかなかったり時間がかかったりすると思いますが、技能化するまで磨いていきたいです。

昨日一日で見たこと、感じたことは僕の考えを改めるきっかけでもあり、「仕事とは何か」、まさにあの道徳の授業に通じていくと思います。渡辺先生は「命をかけて授業をする。」をまさに体現しており、そんな授業を間近で観せていただいたことに本当に感謝しかありません。

次にお会いできる日を楽しみにしております。

本当に本当にありがとうございました！！！！！！！！

道治先生へ

昨日は大変お世話になりました。

夕食の場でもお話しましたが、私は盛岡で道治先生と出会えたことで教育に対する考え方がガラッと変わりました。それまでの私は、与えられた仕事を精一杯やるだけでいっぱいだったため、チャレンジする元気や勇気がありませんでした。というより、機会はいつでもあったし、チャレンジしたい気持ちもあったのに、目を背けていた気がします。しかし、旅行をメインで！という約束で、旦那の付き添いで盛岡へ行き、3人の努力家に出会えたことで、教育って面白いな、常に学び続けている教員って魅力的だなと感じました。あの日から、仕事へのやりがいを感じるようになりました。道治先生から学んだ1人2秒ずつ目線を配る練習をしたり、話し方に抑揚を付けてみたりと、自分に合うやり方を見つけるために挑戦してみました。

そして迎えた昨日。みおさんやけいとさんに学校までの道案内してもらおうという偶然の出会いからスタート。子ども達と登校するなんて、教員になってから始めてだったので、道中ワクワクが止まりませんでした。とても楽しいひとときでした。

昨日の出来事を一言でまとめると、『天と地がひっくり返った』でした。公

立と私立の学校のシステムが全然違かったことはもちろん驚きましたが、道治先生がおっしゃっていた『自分を知ること』『悔しさこそ価値』この2つについて深く考えさせられた1日でした。

まず『自分を知ること』については、自分はどういう人だという性格的なところは分かっていたのですが、子どもからどう思われているのかの視点は持っていませんでした。子どもが今欲しい言葉は何だろうとか、この子どもにはこういう声かけがいいだろうとかは、一人一人と関わっていく中で分析をして、その子にあった声かけができるよう努力してきたつもりでしたが、それだけでなく、子どもから自分はどう見えているのか考えることも大切なのだと気付くことができました。そこも考えられるようになれば、子どもが何を自分に求めているのか明確になり、信頼関係が築き上げられていくのだと感じました。

『悔しさこそ価値』については、百人一首で子どもに負けたことが自分自身悔しかったからこそ、余計に心に残りました。今までの自分は、賞をとった人を賞賛することが、賞をとれなかった人たちへの鼓舞につながると思っていましたが、道治先生がおっしゃっていた通り、賞をとった人はそれだけでも価値付けられているんだと気付くことができました。悔しさがあるからこそ、人は成長できると痛感したので、子ども達が悔しさを経験できる場を設定していきたいと思いました。ただ、自分の結果を人と比べる見方だけに固定されないよう、自分の記録を累積していく習慣をつけることで、自分の過去の記録と比較していく見方もあることに気付かせたいと思いました。それができれば、『自分を知ること』にも繋がると感じました。

この1日で学んだことは、間違いなく私の財産になりました。年休をとってまで愛知県に来て良かったです。学ぶのが楽しそうな子ども達を見られたこと、教育熱心な先生方と出会いお話ができたこと、松原さんの生き方や考え方を聴けたこと、とても幸せな一日でした。

貴重なお時間をありがとうございました！！

毎日寒い日が続きますので、どうぞご自愛ください。

瀬戸SOLAN小学校 4年生のみなさんへ

一日の始まりから驚かされたな〜！校舎の入り口で会ったら4年教室まで案内してくれましたね。なんというプレゼント力の高さ✨そしてなんといってもお喋り！自分のことだけでなく友達の得意なこともスラスラでてきて、先生たちが覚えやすいように教えてくれましたね。✨とっても嬉しかったです。初対面の、しかも自分たちと10も20も年の離れている人たちとおあやうやく楽しく話すことができるみなさんに心から感心してしまいました😊

授業でも暗誦、辞書引き、地図帳、音読などなど、「本気」の姿がかっこよかったです。

初めてやった百人一首も3戦全敗。とても悔しい。悔しくてたまらない！次会うときには負けません！栃木で練習を積み重ねます。みなさんに追いつきます。またいつか戦いたいですね！

素敵な一日をありがとう。みんなと一日過ごして先生という仕事をもっともっと頑張ろうと思いました。

(たった一日過ごしただけなのに、こんな風に思えるのに驚き😊) みんなの努力する姿から元気をもらいました！

みなさんのことを、栃木県から応援しています！

高橋知生



この間はありがとう！！

朝会った瞬間から元気に挨拶をしてくれたり、ペーゴマやプログラミング、けん玉など得意なことを教えてくれたりと、コミュニケーション能力が本当に高い4年生だな！と第一印象で思いました。そして何より印象的だったのは、自己紹介をした後、一生懸命名前を覚えようとしてくれたこと。私のことを知ろうとしてくれているのが伝わってきて、胸がいっぱいになりました。

それに加えて、道治先生の一言で始まる暗唱、玉を弾く音と息びったりなみんなの声しか聴こえない100たまそらばん、『〇〇とは』の質問が合図となって始まる辞書引きなども、心踊るように学ぶみんなの姿に感銘を受けました。

1日しか一緒にいなかったのに、別れが寂しくなったのは、みんながそれだけ心の距離を詰めてくれたからだと思います。また会いたいと思わせる天才ですね。ぜひ！百人一首リベンジをかけて、また会いましょう！そんな日が来ることを楽しみにしています。

高橋ちさと



☆ ↓ 読者ページはこちらから ↓ ☆ ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

